

教科名	国語	科目名	論理国語	履修学年	中学 高校	3 年	1.2	組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	三省堂 『 精選 論理国語』							
担当者	横田 美月		三省堂 『 精選 論理国語』課題ノート 新しい共通テスト 国語対策問題集現代文編実践レベル							
学習目標	文章の構造理解を通して、論理的に文章を読解する能力を高めるとともに、記述式解答作成の実践練習をし、文章作成力の向上・定着を目指す。 大学入試に適応できる読解力・記述力を養成することを目標とする。									
評価方法										
評価観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	主張と論拠など事柄同士の関係について理解することができる。問われている内容を正確に理解し、適切に解答することができる。			「書くこと」：自分の考えが、状況に合わせて的確に伝わるように表現を工夫している。 「読むこと」：内容や構成、論理の展開についての確にとらえ主張や主題・要点を理解することができる。		使用した教材のみならず、様々な状況に応じて学んだことを必要に応じて活用することができる。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査					①単元終了時の「研究課題」				
	平素の小テスト・課題・提出物等					②振り返りシート等を用いた自己調整のモニタリング				
	使用テキストにおける習熟度									
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。									
学期末の 各観点比率(%)	40%			40%		20%				
授業計画										
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2	
1	4	○問題集を使用しての共通テスト 対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策					1 3 3 7 2 3 3 8	中間考査	研究課題①	
	5	中間考査								
	6	○問題集を使用しての共通テスト 対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策						期末考査		
	7	期末考査								
	8	○問題集を使用しての共通テスト 対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策								
2	9	○国公立記述対策					10	中間考査	研究課題②	
	10	期末考査								
	11	○問題集を使用しての共通テスト 対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策 ○国公立記述対策						9		期末考査
	12									
3	1								実習課題	
	2									
	3	※進捗状況等により、教材・取り扱う内容の変更の可能性がある。								

教科名	国語	科目名	論理国語	履修学年	中学 高校	3 年	3,6,7	組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	三省堂 『 精選 論理国語』							
担当者	二神 颯		三省堂 『 精選 論理国語』 課題ノート 新しい共通テスト 国語対策問題集現代文編実践レベル							
学習目標	・ 文章を読むことを通して、筆者の主張の構造や論理展開を的確に把握し、自らの思考を言語化する力を養う。 ・ 多様なテキストを読み解きながら、自らの意見を論理的かつ説得力をもって表現する力を育成する。 ・ 文章の構造理解を通して、論理的に文章を読解する能力を高めるとともに、共通テスト 対策の実践練習をし、文章作成力の向上・ 定着を目指す。									
評価方法										
評価観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	主張と論拠など事柄同士の関係について理解することができる。問われている内容を正確に理解し、適切に解答することができる。			「書くこと」：自分の考えが、状況に合わせて的確に伝わるように表現を工夫している。 「読むこと」：内容や構成、論理の展開についての的確にとらえ主張や主題・ 要点を理解することができる。		使用した教材のみならず、様々な状況に応じて学んだことを必要に応じて活用することができる。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査									
	平素の小テスト・ 課題・ 提出物等									
	使用テキスト における習熟度									
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。									
学期末の 各観点比率(%)	40%			40%		20%				
授業計画										
学 期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時 間 数	評 価 区 分 1	評 価 区 分 2	
1	4	『「である」ことと「する」こと』丸山真男 ○問題集を使用しての共通テスト 対策					4 3	中 間 考 査	研 究 課 題 ①	
	5	中間考査								7
	6	『「文化が違う」とは何を意味するのか?』岡真理 ○問題集を使用しての共通テスト 対策					4 4 8	期 末 考 査		
	7	期末考査								
	8	○問題集を使用しての共通テスト 対策								
		○過去問題を使用しての私大試験対策								
2	9	『リスク社会論』大澤真幸 ○国公立記述対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策					4 3 3	中 間 考 査	研 究 課 題 ②	
	10	期末考査								10
	11	○問題集を使用しての共通テスト 対策 ○過去問題を使用しての私大試験対策 ○国公立記述対策					3 3 3 9	期 末 考 査		
	12									
3	1								実 習 課 題	
	2									
	3	※進捗状況等により、教材・ 取り 扱う 内容の変更の可能性がある。								

教科名	国語	科目名	論理国語	履修学年	中学 高校	3 年	4,5,8,9	組
単位数	2	使用教科書 補助教材等	三省堂 『 精選 論理国語』					
担当者	影山 大		三省堂 『 精選 論理国語』 課題ノ ート					
学習目標	・ 言葉による見方・ 考え方を働かせ、言語活動を通して、社会生活に必要な国語を正しく 理解し 適切に使える能力を育む。 ・ 他者との関係の中で相互に理解し 伝え 合う 力を高め、思考力や想像力を養う。 ・ 言語感覚を豊かにし、自らが生きる社会において国語を 尊重しその能力の向上を図る態度を養う。							
評価方法								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	主張と論拠など事柄同士の関係について理解することができる。言葉の意味を適切に理解し、自分の表現活動に活かすことができる。		「書くこと」：自分の考えが、状況に合わせて的確に伝わるように表現を工夫している。また表現することにより 思索を深めている。 「読むこと」：内容や構成、論理の展開についての的確にとらえ主張や主題・ 要点を理解することができる。		各単元において、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤できる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査							
	平素の小テスト・ 課題・ 提出物等							
			①単元終了時の研究課題 ②小論文課題・ 志望理由書課題					
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。							
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%			
授業計画								
学 期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等				時 間 数	評 価 区 分 1	評 価 区 分 2
1	4	ガイダンス 『「である」ことと「する」こと』丸山真男				1	中間 考査	研究課題①
	5	『 擬似群衆の時代』湊千尋				3		
		中間考査				3		
	6	『 スポーツとナシヨ ナリズム』阿部潔 『「文化が違う」とは何を意味するのか?』岡真理				7	期末 考査	
		7	期末考査					
	8		『 生命とのかかわり-精神科医として-』木村敏					
						3		
2	9	『 リスク社会論』大澤真幸 演習問題等				8	中間 考査	研究課題②
		10	期末考査					
					1			
	11					4	期末 考査	
		12						
					3			
3	1					2		実習課題
						1		
	2					3		
						12		
3	※単元・ 作品に応じて、+αの教材を用いて、演習を行う。 ※到達度・ 進捗状況等により、教材・ 取り 扱う 内容の変更の可能性が							

教科名	国語	科目名	文学国語	履修学年	中学 高校	3 年	1	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	三省堂『 精選 文学国語』						
担当者	奥原 もな美		その他適宜プリント 等教材						
学習目標	・ 場面ごとの登場人物の心情を正確に読み取り、物語のテーマについて考えることができる。 ・ 物語の構造をとらえ、テキスト 分析の手法を身につけることによって、論理的に物語を解釈することができる。 ・ 私大・ 国公立二次・ 共通テスト の問題に対応することができる。								
評価方法									
評価観点	知識・ 技能			思考・ 判断・ 表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	物語の構造、視点や象徴などの分析の観点について理解する。 場面の転換点を把握し、それぞれの場面において、「できごと・ 会話→感情の動き→行動」という 流れを把握する。			「書くこと」：物語のプロットを抜き出すことで、要点を押さえて要約する。テキスト 内の記述に基づきながら物語を解釈し、表現する。 「読むこと」：視点、場面の転換、表現の特徴など、効果的に用いられている仕掛けに気づき、その効果を説明することができる。		各単元において、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤できる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査					①「 研究課題」			
	平素の小テスト・ 課題・ 提出物等					②振り返りシート 等を用いた自己調整のモニタリング			
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。								
学期末の 各観点比率(%)	40%			40%		20%			
授業計画									
学 期	月	学習内容・ 学習単元・ 学習到達目標等					時 間 数	評 価 区 分 1	評 価 区 分 2
1	4	ガイダンス 過去問等演習問題をを用いた演習 定期的に教科書の作品をとりあげ、分析・ 精査を行う					7	中 間 考 査	
	5	「 ベルエポック」「 鞆」「 永訣の朝」「 檸檬」「 陰影礼賛」「 舞姫」							
	6	中間考査				9		期 末 考 査	
	7	期末考査							
	8								
	2	9					8	学 年 末 考 査	
10		学年末考査							
11						11			
12		↓							
3		1							
	2								
	3	※単元・ 作品に応じて、+αの教材を用いて、演習を行う。 ※到達度・ 進捗状況等により、教材・ 取り 扱う 内容の変更の可能性が							

教科名	国語	科目名	文学国語	履修学年	中学 高校	3 年	3, 6	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	三省堂『精選 文学国語』 桐原書店「新しい共通テスト 国語対策問題集 現代文編」 その他適宜プリント 等教材						
担当者	二神 颯								
学習目標	・ 場面ごとの登場人物の心情を正確に読み取り、物語のテーマについて考えることができる。 ・ 物語の構造をとらえ、テキスト 分析の手法を身につけることによって、論理的に物語を解釈することができる。 ・ 私大・ 国公立二次・ 共通テスト の問題に対応することができる。								
評価方法									
評価観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	物語の構造、視点や象徴などの分析の観点について理解する。 場面の転換点を把握し、それぞれの場面において、「できごと・会話→感情の動き→行動」という流れを把握する。			「書くこと」：物語の本質をとらえ、鍵となる場面を捉えて解釈し、要約する。テキスト内の記述に基づきながら物語を解釈し、表現する。 「読むこと」：視点、場面の転換、表現の特徴などが物語に与える効果を理解し、説明することができる。		各単元において、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤できる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査								
	平素の小テスト・課題・提出物等								
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。								
学期末の 各観点比率(%)	40%			40%		20%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	ガイダンス 過去問等演習問題を用いた演習 定期的に教科書の作品をとりあげ、分析・精査を行う					7	中間考査	
	5	「ベル・エポック」「永訣の朝」「檸檬」「舞姫」「陰翳礼讃」							
		中間考査							
	6				9	期末考査			
	7	期末考査							
	8								
	2	9				8	学年末考査		
10		学年末考査							
11									
12		↓							
3	1								
	2								
	3	※単元・作品に応じて、+αの教材を用いて、演習を行う。 ※到達度・進捗状況等により、教材・取り扱う内容の変更の可能性が							

教科名	国語	科目名	古典探究	履修学年	中学 高校	3 年	1・3・6	組
単位数	2	使用教科書 補助教材等	桐原書店「新しい共通テスト 国語対策問題集 古典編」 桐原書店「重要古文単語315」・「基礎から解釈へ 漢文必携」 その他適宜プリント 等教材					
担当者	竹内							
学習目標	・これまで習得した知識（文法・単語・古典常識等）を用いて、古典の大学入試問題を解けるようにする。 ・私大・国公立二次・共通テストにかかわる問題演習を行い、70～80%の得点率を目指す。 ・できる限りさまざまな作品・ジャンルを扱うことで、どんな文章にも対峙できるようにする。							
評価方法								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	「古典探究」の評価規準をベースに、模試・共通テスト・各大学入試の出題に十分対応できる知識・技能を有している。（基本的に「古典探究」の文章・内容を踏襲する）		「古典探究」の評価規準をベースに、本科目の【知識・技能】を応用させ、模試・共通テスト・各大学入試のハイレベルな出題に十分対応できる。（基本的に「古典探究」の文章・内容を踏襲する）		各単元において、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤できる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		平素の小テスト・課題・提出物等		振り返りシート 等を用いた自己調整のモニタリング			
	※各観点における評価方法は、横断的に実施することがある。							
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%			
授業計画								
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等				時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	(古典) 「二月つごもり頃に」『枕草子』より 漢詩（渋沢栄一・明治天皇・西郷隆盛による）				7	中間 考査	
	5	過去問等演習問題を用いた演習						
		中間考査						
	6					9	期 末 考 査	
	7			期末考査				
	8							
2	9					8	学 年 末 考 査	
	10			学年末考査				
	11					11		
	12	▼						
3	1							
	2							
	3	※単元・作品に応じて、+αの教材を用いて、演習を行う。 ※到達度・進捗状況等により、教材・取り扱う内容の変更の可能性が						